

# 東北大学大学院 文学研究科所蔵資料展

## 船入島貝塚

船入島は松島湾でも外洋に最も近いところにあります。

発掘調査は1927年、1934・35年、1939年に行われ、1939年が東北帝国大学（現東北大学）国史研究室の調査でした。

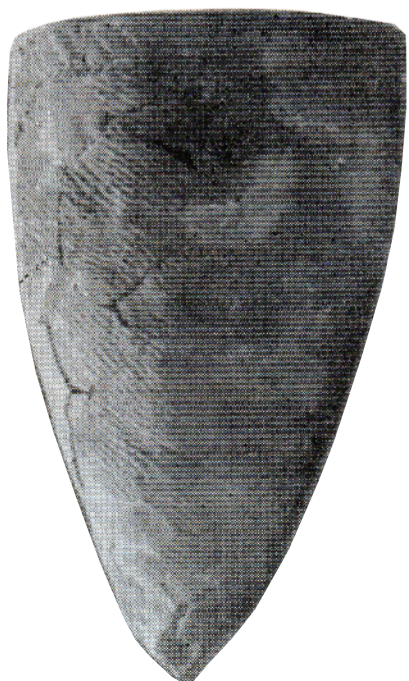
戦後にも『塩竈市史』編纂に伴う調査が行われています。

これまでに調査で埋葬人骨が出土し、貝層と貝層下の土層では土器が異なることを明らかになりました。貝層の平底土器は縄文時代前期で、貝層下の土層の尖底土器は縄文時代早期の土器でした。

東北大学の伊東信雄氏は1957年の『宮城県史』第1巻で、貝層下の土層から出土した尖底の縄文条痕土器を、縄文時代早期末の基準資料に位置づけました。



縄文土器(前期)



縄文土器(早期)





## 崎山囲洞窟遺跡

崎山囲洞窟遺跡は新浜 1 丁目の魚市場の近くにあります。古墳時代の埋葬人骨が多数発見されたことで知られていました。

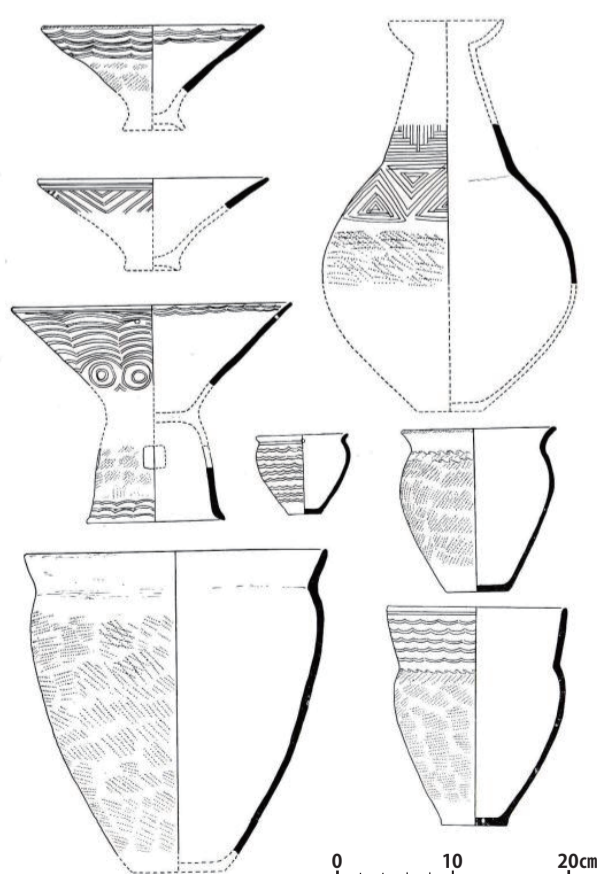


崎山囲洞窟遺跡

1930 年に東北帝国大学地質学・古生物学教室によって発掘調査が行われました。

1962 年の県港湾建設工事に先立ち、県教育委員会の委嘱を受け、東北大学考古学研究室が発掘調査を行いました。

上部には古墳時代の層があり、その下部には弥生土器を含む貝層と貝層下土層が確認されました。展示の口縁部に縄を押しつけた文様がある土器は、弥生時代の終わりごろのものでした。



弥生土器

